

株式会社しんえこ

Pick Up!

平成30年度

事業計画名

特定家電 4 品目リサイクル工程の生産性向上および見える化事業

概 要

特定家電 4 品目のリサイクル事業において社会貢献性と収益性の両立を目指す。

①作業困難工程について専用機を導入、②作業実績の見える化、③作業指導ツール導入により生産性を向上し、雇用拡大と地域の利便性向上を図る。

分 類

<対象類型> ものづくり技術

<事業類型> 一般型

成 果

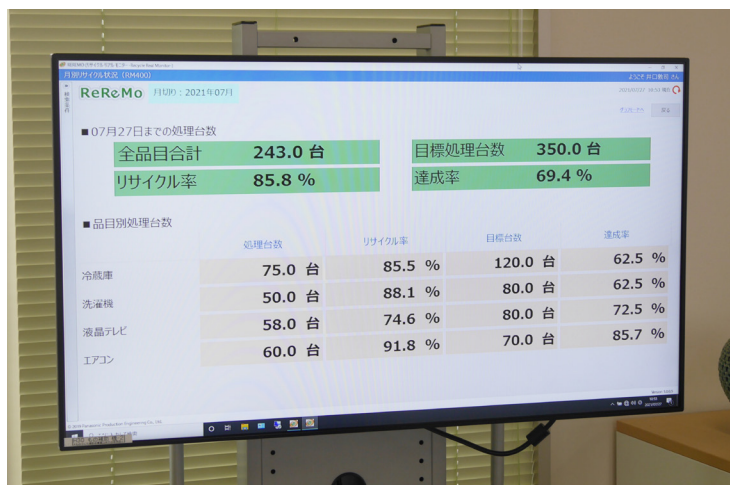
- ①作業困難工程に専用機を導入したことで、作業性が向上した。
- ②作業実績の見える化を行い、作業者の意識向上と来訪者への情報発信ができた。
- ③作業指導ツールの導入により新人作業員（未習熟者）への指導効率が向上した。



専用補助装置に洗濯槽をセット



分別品（コード類）



リサイクル工程管理システム



県立こども病院に還元

障がい者の積極雇用、地域貢献活動でも注目。
総合リサイクル企業として地域循環共生型事業に取り組む。

リサイクル事業と地域貢献で注目

しんえこは、独自の取り組みで注目を集める資源リサイクル会社。2002年に設立し、11年にエンビプロホールディングス（東証一部上場）グループに参画しました。設立当時は企業などから出るスクラップ・廃プラなどの産業廃棄物の収集・運搬・処分を主体にしていたのですが、一般廃棄物にも拡大し、総合リサイクル事業を展開しています。



中信エリアに展開する「もったいないBOX」

松本社は、県内では珍しい大型破碎設備（シュレッダー）を所有し、産業廃棄物を中心に回収・処理を行なっています。その機動力を活かし、一般廃棄物への事業拡大を目指す中で、松本市で「もったいないBOX」をスタート。家庭から出る資源ゴミを24時間いつでも無料で回収する利便性が受けて、現在、中信地域17～18カ所に設置し、年間約6000トン进行回収・処理しています。

一方、「しんえこプラザあづみ野」は、安曇野市から「特定家電4品目を含む一般廃棄物処理業許可」を取得して2018年にオープン。特定家電4品目、不燃物、粗大ゴミなど一般廃棄物の処理を行なっています。

さらに、収益の一部をJリーグ松本山雅や県立子ども病院に還元するなど、地域貢献活動も積極的に展開。「地域の資源を預かって加工・販売した収益を還元していく地域循環共生型の取り組みに力を入れていきたい」と小松茂人社長は力を込めます。

地域のプラットフォームに

しんえこプラザあづみ野の特徴は、特定家電4品目などの解体をシュレッダーを使わず、手作業を基本としていること。手解体により、リサイクル



障がい者、高齢者などが手作業で解体

率の向上、省エネ、そして設備投資よりも人的投資を優先し、雇用機会の創出を図っています。

同所での作業を担う社員は、障がい者や高齢者など、地域の多様な人材。勤務日や時間はもとより、作業内容も個々の特性に応じて柔軟に対応しています。



洗濯機の解体を補助する専用補助装置

同社では生産性向上と作業実績の見える化を図るため、平成30年度補正ものづくり補助金を活用。手解体が困難な洗濯機の解体を補助する専用補助装置を導入し、作業性向上とリサイクル率の向上を実現しました。さらにリサイクル工程管理システムにより、解体数量と品目別・資源リサイクル率の報告書作成の効率化と、作業実績の見える化を図りました。またウェアラブルカメラを用いて、熟練者目線で撮影した動画をもとに作業内容や手順の復習・確認ができる作業指導ツール（標準作業ナビ）を導入。障がいを持つ作業員にも分かりやすい作業指導を行なっています。

「しんえこプラザあづみ野では地域と連携し、資源物を中心としたプラットフォームとして、雇用もお金もここから生まれる仕組みをつくりたい」と小松社長。そしてこう続けます。「目指すのは、地域にあってよかったと言っただけの会社。それが社員と家族のモチベーションにもなると思うんです」。



ウェアラブル端末を使った作業指導ツール（標準作業ナビ）



株式会社しんえこ

代表 代表取締役社長 小松 茂人
設立 2002（平成14）年2月
資本金 1億円
従業員数 56名
本社 松本市島立2346
TEL.0263-47-3211 FAX.0263-47-3213
事業内容 鉄・非鉄金属、廃プラスチック、小型家電、
廃OA・事務機器、廃自動車、古紙などのリサイクル



<https://syneco.co.jp>